



## カリニ肺炎の現状とβ-D-グルカン検査

ニューモシチス・カリニ（カリニ）によって引き起こされるカリニ肺炎は、代表的な日和見感染症（opportunistic infection）のひとつです。健常者がカリニを吸入したとしても肺胞マクロファージの貪食能によりカリニの増殖が抑制されるため発症することはありませんが、AIDSや免疫抑制剤投与などによる免疫不全状態（特に細胞性免疫不全状態）の患者では肺胞内で著しく増殖し、A-Cブロックに起因する呼吸不全を引き起こします。本症は適切な治療が行われないとほぼ全例が死に至るとされています。特に非AIDS患者の場合は発症後の進行が非常に早く、急速に悪化することが多いので迅速な診断・治療が必須です。検査としては呼吸器材料からのカリニ検出の他にβ-D-グルカン検査も有用なマーカーとなります。